

シリーズ～詩編～

2015/3/15

裏切り

イスカリオテのユダについて

- ◎ 「イスカリオテ」とは
 - 「ケリヨテ(カリオテ)」出身の人, という意味
- ◎ イエス様によって12弟子の一人に任命された
 - 数多くの弟子志願者の中から選ばれた
- ◎ イエス様一行の金庫番であった
 - 「彼は盗人であって、金入れを預かっているながら、その中身をごまかしていた」<ヨハネ12:6>
- ◎ ナルドの香油事件の時の発言
 - 「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」<12:5>

師を売ったユダ

● ユダの方から祭司長たちにもちかけた

- 「そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、『あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか』と言った。そこで、**彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。**そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。」〈マタイ26:14-16〉

● 「銀貨三十枚」は誤って奴隷を殺した場合の保証金

- 「牛が男奴隷あるいは女奴隷を突いた場合は、銀三十シェケルをその主人に支払い…」出エ21:32

マタイ福音書26:17~25

除酵祭の第一日に、弟子たちがイエスのところに来て、「どこに、過越の食事をなさる用意をいたしましょうか」と言った。イエスは言われた。「都のあの人のところに行ってこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」弟子たちは、イエスに命じられたとおりにして、過越の食事を準備した。夕方になると、イエスは十二人と一緒に食事の席に着かれた。一同が食事をしているとき、イエスは言われた。

「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」

弟子たちは非常に心を痛めて、「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。イエスはお答えになった。「**わたしと一緒に手で鉢に食べ物**を浸した者が、**わたしを裏切る**。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで、「先生、まさかわたしのことでは」と言うと、イエスは言われた。「それはあなたの言ったことだ。」

最後の晩餐の時のやりとり

- イエス様はユダの裏切りを知っておられた
 - 「あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」
- 心当たりのない弟子たちは困惑した
 - 「主よ、まさかわたしのことでは」
- イエス様は詩編の言葉を引用し、裏切りは決まっていたことだ、と言われた
 - 「わたしと一緒に手で鉢に食べ物を浸した者が、わたしを裏切る」

最後の晩餐の時のやりとり

◎ 裏切ることになるユダを憐れまれた

- 「人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった」

◎ ユダはしらを切ろうとした

- 「先生、まさかわたしのことでは」

◎ イエス様ははっきりユダであると指摘された

- 「それはあなたの言ったことだ。(それはあなただ)」
- 「ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、『しようとしていることを、今すぐ、しなさい』と彼に言われた。」<ヨハネ13:27

引用された詩編41篇

敵はわたしを苦しめようとして
言います。「早く死んでその名も
消えうせるがよい。」

見舞いに来れば、むなしいことを
言いますが／心に悪意を満たし、
外に出ればそれを口にします。

わたしを憎む者は皆、集まってさ
さやき／わたしに災いを謀ってい
ます。

「呪いに取りつかれて床に就いた。
二度と起き上がれまい。」

わたしの信頼していた仲間／わ
たしのパンを食べる者が／威張っ
てわたしを足げにします。

主よ、どうかわたしを憐れみ／
再びわたしを起き上がらせてく
ださい。そうしてくだされば／
彼らを見返すことができます。

病床で苦しんでいるダビデ

- 病床で苦しんでいるダビデ
 - 「見舞いに来れば」「起き上がれまい」
- 表向きは心配しているようだが、実はダビデの死を願っている者たち
 - 「早く死んでその名も消えうせるがよい。」
 - 「呪いに取りつかれて床に就いた。二度と起き上がれまい。」
- 最も信頼している仲間(部下)から裏切られる
 - 「わたしの信頼していた仲間／わたしのパンを食べる者が／威張ってわたしを足げにします」

なぜこの詩編が使われたのか

- ダビデはメシヤについて預言したのではない
 - 自分のつらい気持ちを吐露しただけに過ぎない
- イエス様は、人間として最もつらい思いの一つを経験し、私たちに寄り添おうとされた
 - 「それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです。」ヘブライ2:17-18

ユダの最期

「そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、『わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました』と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。」<マタイ27:3-10>

なぜユダはイエス様を裏切ったのか

◎ 金のため

- ユダは金の亡者だった

◎ ユダの誤算

- 祭司長たちに売り渡しても、まさか十字架に架けられるとは思っていなかった!

◎ イエス様はユダのためにも死なれた!

- 「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」〈ルカ23:34〉

◎ 裏切った者の良心の呵責も理解された